



「ココが決め手で '06モデルを手に入れました」

FXDLIへの思い入れは人それぞれ。そこで、'06年式ニュー・ローライダーの
オーナーさんにこのマシンの魅力を聞いてみました。

取材協力〇ハーレーダビッドソンレインボー (☎029-822-6666)



「皆さんは、という経緯で'06年式のFXDLIを手に入れるに至ったんですか？」

柴原徹浩さん（以下、柴原） 実はもともと私と萩原さんは、同級生で中学時代からの知り合いだったんですよ。

萩原忠司さん（以下、萩原） そう、それで柴原さんが昨年急に教習所に通い出して、大型、輪の免許を取ったんです。私も大きなバイクに乗りたと思っていたので、さっそく追いかけるようにして免許を取りました。

柴原 別にすぐにバイクに乗ろうという気はなかったんですが、とりあえず免許だけ取っておけば、いつでも乗れるだろうという気持ちでした。

でも彼（萩原さん）はつき合われてハーレーダビッドソンレインボーさんに行つたのが運のつき!? 衝動買いでしたね。初めはローライダーに乗るとは思っていなかったんですが、シンプルなバイクがよくて、ひと目ぼれです。

萩原 早速、昭和34年生まれなのですが、ちょうど私が10代でバイクの免許を取るころ、限定解除、っていうものができて、中型免許と分かれたんです。だから一時は限定解除は諦めていました。それで、しばらくはヤマハのSR400に乗っていました。

でも、そのころからいつかはハーレー、ハーレーならローライダーに乗りたいて思っていたんですね。やっぱりダイナ独特の音と振動はたまらないですから、SRを選んだのも、あの音と振動がいいと思ったからです。

そうしたら、たまたまHDレインボーの店長さんが、やっぱり昭和34年生まれで、すっかり意気投合してしまつて、車体の色なんかは、店長のイチオシということで、気づいたら二人とも黒にしてみました。

バイザーがなくなって、
ガッチリした雰囲気ガ---

「特に“今までのローライダー”のイメージが強いわけではないので、新しいスタイリングが気に入っています。今はシーシー・バーや小物を付けている程度ですが、ツーリングなどに行った時『ココを換えたい!』という部分が出てきたらイジっていきます」



柴原徹浩さん

シンプルなルックスに
ひと目ぼれです!

スタイリングのよさは、
ナンバー1ですね



岩立潤さん



キャブ仕様がないのが
ちょっとさみしいけれど...

「止まっているとやっぱり車重300kgあるバイクだなあと思いますが、走り出せばその重さをまったく感じさせない、取り回しのよさが気に入っています。気持ちよく走っている時なんか『あれ、もう1速あるんだっけ?』と錯覚してしまうぐらいです(笑)」

コイツに乗るのが
20代のころからの夢で...

しばらくはノーマルを
乗り倒します

「200~300kmのロング・ツーリングに行っても、ポジション的にはまったく疲れないんですね。もしそれで『ハンドルをもっと手前にしたいとか、足つき性をもっとよくしたい』という欲求が出てきたら、ちょっとずつカスタムしていこうと思います」



萩原忠司さん

岩立潤一さん(以下、岩立) 実は、ボクも店長のオススメで黒です(笑)。
— 岩立さんのきつかけは何だったんですか?
岩立 ボクはもともと大型二輪の免許を持っていて、650ccのビッグ・スクーターに乗っていたんです。
実は、知り合いにハーレー乗りがいて、彼と一緒にツーリングに行くと、やはり存在感が違うんですね。
それで、ボクもハーレーがほしいなあと。でも、ハーレーに乗るならゼットイ、ローライダーがいいと思っていました。理由は、やはりこの誰もが認めるスタイリングのよさ、ですかね。
実際に乗ってみると「乗りやすい」のひとつに尽きますね。ハーレーの中で一番乗りやすいモデルではないでしょうか。ところで、06年モデルで、相当内容が変わったローライダーですが、それについてはどう思いますか?
岩立 ボクは断然よかったと思います。特に6速ミッションがいい! 街中ではなかなか体感できませんが、高速に乗った時など、余裕がぜんぜん違います。
萩原 確かにこのミッションはいい! ただ、インジェクション・モデルしかなくなってしまったのは、ちょっとさみしい気も...。
柴原 そうですね。キャブはキャブでいいところもありますからね。でも、インジェクションはインジェクションで、そのメリットはたくさんあるし...。
— じゃあ、キャブ仕様が残っていればよかったと思いませんか?
全貴 いや、やっぱりインジェクションを味わっちゃうとこっちの方がいい!
岩立 やつぱりボクらは、ローライダーというバイクにぞっこんですから、バイクが変化してもスグに受け入れちゃうんですよ(笑)。

こんな ローライダーの “作り方”はどう?

ローライダーをベースにしたカスタムの中から、
旧車風、チョップパー風、ツアラー風と、
それぞれ方向性の違った3台をご紹介します!



Doctor
Bob's
Chart
4

大げさに作るのが
ポイントです!



ハーレーダビッドソンレインボー
天田昭一さん



全体の雰囲気
旧車風に仕上げた一台

「ハーレーダビッドソン レインボー」
が手がけるこの車両は、'06年式をベ
ースにした初代FXS ローライダー風の
コンプリート・カスタム。

全体のペイントを始め、フロント・フ
ェンダーやヘッドライトのバイザー、ハ
ンドル、シートなど、本物を忠実に再現
するのではなく、あえて特徴的な部分を
ディフォルメすることで、“全体の雰
囲気”をオリジナルに近づけている。

ちなみに販売は、コンプリート車両と
してのみ（車両本体価格259万円）。



ヘッドライト・バイザーは、これまでのロ
ーライダーの特徴でもある。これも新たに
製作した



フロント・フォークのカバーは、太くな
ったフォークに合わせ、ゼロから製作。さら
にエンブレムで雰囲気を出した



'80年代に入ると、ドラッグ・バーではな
くなるが、初代のイメージはやはりドラ
ッグ・バーということで、このスタイルに



初代ローライダー風のシートもオリジナル
で製作。エッジを強調し、日本人の体形に
合わせて、厚みをやや薄くしている



'77年のみに使用されていたエア・クリ
ナー・カバーのカタチを再現。排気量のレ
タリングは、現行の1450ccになっている



フロント・フェンダーを当時と同じフル・
タイプに。スポークが旧車風のイメージを
さらに引き立てる

'79年カラー・バージョンもあり

HDレインボーのコンプリートには、
初代ローライダー仕様と肩を並べて
根強い人気を誇るもう一つのカラー
リングがある。それは、ローライダ

ーが登場して3年目の'79年式をモ
チーフにしたバージョン。これも、
コンプリート・カスタムとしてライ
ンナップするので、好みで選べる



——続いて、ローライダーのカスタム・
サンプルを見ていきたいと思います。ですが、
今はいったい、どんなカスタムが定番と
いわれているんですか?

▲ロー&ロングがウリのローライダー
は、やはりチョップパー・テイストが多い
が、一方で走りを強化する乗り手もいた
りして、イジリ方は多彩じゃ。

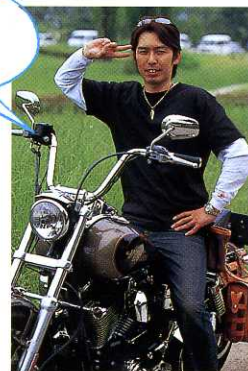
——ここで紹介するのは、ローライダー
のデビュー・イヤーである'77年当時のル
ックスを、'06年モデルで再現したという
車両と、'05年モデルをベースにチョッパ
ー風にしたもの、そして、なんとロード
キングを意識して、ツーリング系のカス
タムを施したというローライダーなので
す。

▲ほほう。旧車風のマシンは、'06年モ
デルでここまでやるとは…。デビュー当
時のポイントがしっかり押さえられてい
て、雰囲気が出ておるな。

他の2台もそれぞれ違ったテイストで、
なかなかおもしろいサンプルじゃぞ。



走りを重視して、
コレを選びました!



松田光央さん
with '05FXDL

旧車のようなイメージで ライト・チョッパーを製作

「とにかく“走れる”バイクがよかったんです。それで、極端なんですが“タコ・メーターが必要だ”と(笑)。

以前乗っていた国産バイクにもタコ・メーターがなくて、後付けで追加していたんですよ。とはいえ、ハーレーには古臭いイメージが似合っていると思うので、あまりハイテクなパーツは付けられないようにしたいんです。色もあえて地味めを選びました。全体のコンセプトは「ちょっと速そうでいて旧車のような雰囲気のある、ライト・チョッパー」です」



HD レインボー・オリジナルの初代ローライダー風シート。「旧車っぽくて気に入っています」



ハイウェイ・ベグヒスステップはCC-1製「チョッパーっぽいイメージにピッタリでした」



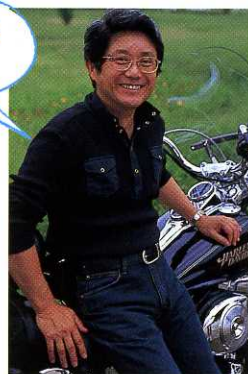
キャブはノーマルだが、雰囲気を出すためにエア・クリーナー・カバーは、S&S製に交換



高からず低からず、走りやすい「モーターステージ」の「ペビエー・エイブ」をチョイス



本当はロードキングに
乗りたかったのが...



坂本豊さん
with '05FXDL

ウインド・シールドやバッグで、 “取り回しやすいツアラー”に

「もともとロードキングに乗りたと思っていたのですが、実際またがってみると、とても扱いきれなかった。しかも温泉ツーリングが好きで、秘湯のような所にも行くのですが、ツアラーだと入っていけない場所も多いですよ。

そこで、取り回しのしやすいローライダーをベースに、ローキングを作ってやろうと思ったんです。

ポイントは、フォグ・ランプですね。さらにウインド・シールドを追加して、よりツアラーっぽく仕上げました」



サドル・バッグは、シンプルかつタンデムをした時でもジャマにならないものを選んだ



「タンデムはあまりしない」というオーナーだが、シートはいつでもタンデムの準備OK!



エンジン・ガードにツーリング用のハイウェイ・ベグを付けた。どちらもHD純正



アメリカから取り寄せたHD純正ウインド・シールドは、フォグ・ランプをかわすカタチに